1993
1
VOL.390

東北電力

迎春

特集　考えてみませんか?ボランティア活動



仙台北営業所のコミュニティープラザ「フェンテ」

ー新装社誌の発行についてー

みなさんに しかられる

社誌づくりをいたします

今月号から社誌がこのように変わりました。
私たちは，WAVE21で寄せられた数々の提言をはじめ，社内報モニターの方々からの意見，
巻末のアンケートで届けられた意見など，いろいろな場で寄せられたみなさんの声を参考にしながら，
これからの社内報のあるべき姿を考えてまいりました。
その結果が，従来の東北電力新聞と社誌とを統合した今月号の社誌です。
何のために社誌があるのか，誰のために社誌があるのか，どんな情報を提供すべきか，
カラーがいいか白黒でいいか，縦書きか横書きか，…，など，
いろいろな角度から東北電力の社誌を考えてきました。
私たちの結論は，
社会が見える（当社や電気事業を取り巻く社会環境がわかる）
会社が見える（当社や電気事業の抱える諸課題がわかる）
社員が息づく（従業員同士のコミュニケーションがはかれる）
社誌をつくろうということです。
そしてそのためには，従来の慣例や習慣にとらわれることなく，
常に変革の意気込みを持ち続けることが必要だと考えております。
私たちの変革のエネルギー源は，みなさんから寄せられる数々のご意見や
アドバイス，おしかりや励ましの声です。
皆さんからの声が聞こえなければ，私たちは社誌をつくることができません。
社誌の変革は今月号で終了した訳ではありません。今月号からまた新たな変革のスタートを切ったのです。
私たちは，皆さんに社誌を読んでいただきたいと思いますし，
社誌を愛していただきたいと思っています。
しかしそれ以上に，社誌を「しかって」いただきたいと思っています。

名付け親になってください！

さて，この新装した社誌にはまだ名前がありません。
上記に記載した社誌の意義や役割にもマッチした，親しみやすいニックネームを考えてくれませんか。
本誌閉じ込みのアンケート用紙に記入のうえ広報部社誌あてにお送りください。
■しめきり：2月末日■

CONTENTS
1993-1
Number390

2 会長、社長新年のごあいさつ

10 **特集**

考えてみませんか？ボランティア活動
PART 1 東北電力社員のボランティア感度
——社員200人に聞きました——
PART 2 私たち こんなことをしています
～広がる笑顔の輪～
PART 3 インタビュー
～一人ひとりが少しずつ力を出し合って～

18 **特別寄稿** 堀章男広報事務所 代表 堀 章男氏
組織の中のコミュニケーションのあり方

20 シリーズ
PAL奮闘記⑦ ～宮城編～

22 シリーズ
CM制作の現場から①

28 マンスリーNEWS
- 能代火力発電所1号機，試運転開始
- 仙台火力発電所の石炭受入量 2,000万トンを突破
- 「豊かな心情の世界」展 開催
- 全社員対象の原子力発電所見学研修会終了

30 掲示板
- 国内外派遣研修候補者の募集
- 年間標語墨書の募集
- 昇格試験の実施
- 当社が提供するテレビ、ラジオ番組のご案内

32 新コーナーの予告

34 定年退職者の方のご紹介
～長い間ありがとうございました～

36 気ままにおしゃべり FREE TALKING

■ 平成4年11月 電力需給実績



会長　玉川　敏雄

明けましておめでとうございます。

皆様にはご家族おそろいで，新年を明るい希望の中で迎えられたことと，心からお慶び申しあげます。

それぞれに新しい年を迎えられ，新たな希望と喜びと，そして厳粛な気持ちを抱いておいでのことかと思います。本年もまた，皆様方のご多幸とご健勝をお祈りし，平成５年の年頭にあたりまして，一言ご挨拶申しあげます。

"新しい現実"への対応を

さて，昨年から今年にかけての国内外情勢などを振り返りながら，所信を申し述べたいと思います。

―昨年の湾岸戦争終結当時，アメリカのブッシュ大統領の再選につきましては，誰も疑いをいれることがありませんでした。ところが，あれから２年，その結果は皆様がご承知のとおりであります。

すなわち，昨年11月の大統領選挙の結果，クリントンさんが次期大統領としてまもなく就任することとなりました。アメリカ国民はこの大統領を選ぶにあたりまして，「変化」を求めました。

ところで，旧ソ連のゴルバチョフさんはすでに政治の表舞台を１年ほど前に去っております。東西冷戦を終結させた主役，米国・旧ソ連の元首，二人ともに舞台から降りたこととなったわけであります。

このように，私たちは今，世界の激変の流れにあって，「新たな現実」への的確な対応が必要とされる時に立ち至っている，と申せるかと思います。

こうした近年の情勢の変化を見ますれば，とくに今や国際社会に対して影響力の極めて強い国として，わが国の主体的な関与がますます求められているという意味におきまして，その役割と責務の重大さを深く考えさせられます。

これらの流れを，私たちとしても誤りなくとらえ，将来の世界の平和実現や発展に向けて，なしうる対応策を考え実行していかねばなりません。

しかし，ＰＫＯ派遣問題をはじめといたしまして，国際貢献などのいわゆるグローバルな問題につきましては，全体として，わが国の意識・行動は，いまだに十分ではないように感じられます。おカネの問題ばかりでなく，技術，ノウハウさらには人的な面で発展途上国への援助・協力や，国際平和の基盤となる相互理解に結びつくコミュニケーション・パイプの構築に一層力を注がねばなりません。

地球環境問題につきましても，経済の成長，資源やエネルギーの利用と環境保全との関係を，〝世界の中の日本〟という視点からどう調和していくか，ということであります。

この問題につきましては，社会の繁栄と幸福を願う私たち地域の電気事業におきましても，私たちの精神をいわば「地球市民」というような大きな次元にまで押し広げ，地域社会の先導的役割を担いながら，具体的活動に取り組んでいかねばならないと思います。

勇気と主体性を持って地域発展に理想の追求を

今，わが国は，いわゆるバブル経済崩壊後の景気後退に直面しております。

景気の回復見通しにつきましては，政府の打ち出しました総合的な景気対策も，その効果が現れるにはかなり期間を要するとの予想もございまして，楽観をゆるさない状況にあると申せます。

さらに，経済界を巻き込んだ政界の不祥事も，バブルの落とし子かと思います。政治改革の必要性が叫ばれているにもかかわらず，この種の政治疑惑が生じておりますことは，まことに寒心に堪えないものがあります。国際政治・経済のリーダーとしての役割を担うべき日本でありながら，政治の本質は旧態依然としており，国民をよそにコップの中の争いに終始しております。

このような状況に対しましては，国民の政治に対する信頼を回復するために，１日も早く抜本的な政治改革を断行するよう念願するとともに，私ども国民といたしましても，なにがしか打開の道を真剣に考え，勇気と主体性をもって変革を促していく必要があると，切に思うものであります。

東京一極集中問題につきましては，私もかねてから申してまいりましたように，国内政治・経済の麻痺を助長するものでありまして，国家

の大計をもってざん進的にこのひずみを是正していかねばなりません。幸いにも，昨年の国会では「国会等移転法案」が決まり，私どもがかねがね主張している首都機能の移転と均衡のとれた国土形成への具体施策が展開されようとしております。国内外から多くの期待を寄せられている東北に住む者として，大いに期待しているところです。

その東北の昨年１年間の動きを見ますと，景気の後退による影響も危惧されましたものの，おおむね一定の成果を得た，実り多い年でありました。

ミニ新幹線につきましては，岩手と秋田を結ぶ田沢湖線が着工し，さらに，昨年７月には山形新幹線が開通いたしました。この新幹線を強力な交通手段として，『べにばな国体』が青森以来15年ぶりの当社管内における完全国体として開催され，成功裡に終了しております。

空港も，昨年末，仙台空港2,500m滑走路が供用開始いたしましたし，まもなく福島空港が開港の見通しとなっております。

このように，高速交通ネットワークの整備は一段と進展をみております。また，独創的な学術・技術・情報の国際的な一大発信基地づくりを目指す，東北インテリジェント・コスモス構想につきましても，研究開発会社が昨年新潟と福島に新しく設立され，合わせて９社を数えるなど，今後さらに地域内における産業化に向けて大きく飛躍・発展しようとしております。

これらはいずれも，第二国土軸という国土政策上の壮大な構想実現の基幹をなす基盤整備のための諸々のプロジェクトであります。それらが着々と進展をみておりますことは，東北地方の未来に向けての飛躍を約束するものでございます。

さて，先ほど「変革」ということを申しましたが，私は，このような地域の自立的な発展を一つの大きな力としてわが国を変えていく必要があると思うのであります。そして，私たちとしても「地方があって日本がある」という信念を抱いて，地方から日本，世界を見通す視線を持ち，未来に力強く突き進む，地方独自の論理を確立することが今こそ必要なのではないかと考えます。

変革というものは，政治であれ，あるいは企業であれ，それを支える人々の主体性なしには，現実のものとはなり得ないと信じます。考えているばかりではなく，明日の明るい夢を抱きながら，このような使命感を持って，具体的行動を一歩一歩進めてまいりたいものであります。

新たな年、感動を忘れずに

さて，新たに迎えた平成５年であります。期待を込めまして，皆様に今年１年の生き方，仕事への取り組み方などについて，次に申しあげたいと思います。

最近，「上杉鷹山（うえすぎようざん）」の伝記の類が静かなブームとなっております。

上杉鷹山というのは，ご承知の方もおられるかと思いますが，今から200年ほど前，つまり江戸時代，東北地方の米沢藩におきまして，財政に窮したこの藩の立て直しに成功した名君主のことであります。鷹山公は，一般的には節制・倹約により改革を行った殿様として知られておるようでございます。

しかし，この逸話には，現代の私たちにとりましても，意識・行動の革新や，企業にとっての新しい付加価値の創造などといった点で，たいへん示唆にとんだ点があるように思います。

藩の経営の減量化，合理化あるいは効率化と申しましても，いわゆる人減らしや無理強い的な方策を上から押しつけるのではなく，トップ自らが先頭に立って改革を進め，領民の理解と協力を得ながら，まったく新たな方法で産業などの振興をはかったのが鷹山公でありました。旧来の慣行に縛られ，ムダが多かった藩の仕事を，今に言う行政改革の考え方と同様に大胆に切り捨て，その代わりに将来に新しい価値を生み出す，多くの産業からあるいは学術にいたるまでを藩内に興したのであります。

しかしそれは当然のことながら，領民の理解と主体的な協力なくしては成し遂げられません。そのため鷹山公は，多くの民衆にこうした改革への参加を広く求め情報を共有するとともに，人々の知恵と自発的な協力を得ながら改革を進めたのであります。

旧来のろう習を破れないでいる我々にとっては，大いに見習うべきものがあろうと思うわけであります。

我々がこのことを見習う場合に，何よりも大事なことは「気力」であります。

それから，「関心」を持つことが大事です。何から行うべきか，何ができるのか，そして行ったことに対して責任を持ち，その結果として感じることができる成し遂げた時の感動というものが大事であろうと思います。行うべきことを行わないで，やる気がなく無気力で無関心で責任を持たないということでは，感動もありうるはずがありません。政治や経済も気力を持ち，目標を決めて，そして関心を失わずに行わなければならないと思います。人に責任を負わせるのではなく，自分で責任を持って成し遂げることによって，自分なりの人生における感動を持つということが一番大事であろうと思うわけであります。鷹山公の行った藩政の改革からもそういうことを学ぶことができるのではないかと思います。

最後になりますが，今年１年，健康第一で頑張っていただき，職場でも家庭でも明るく朗らかにお過ごしくださいますよう願ってやみません。

これをもって，年頭のご挨拶といたします。

ありがとうございました。



社長　明間　輝行

皆さん新年あけましておめでとうございます。

今年もまた，皆さんとこのように元気に，新しい年を迎えられましたことに，無上の喜びを感じているところでございます。心からお慶び申しあげます。

年末から年始にかけて仕事にあたられました，発電所・変電所のみなさん，技術センターや給電指令所，情報通信所の皆さん，そして営業所，サービスセンターの皆さんなど，多くの方々にはご苦労をおかけしました。ご家族の方を含めまして心から御礼を申しあげます。

昨年の事業活動の成果

さて昨年は，全社キャンペーンとしてのＷＡＶＥ21への取り組みが進められ，意識，行動革新とともに，リストラクチャリング全般が加速されました。沸き上がる皆さんの力に対しまして，心強さ，頼もしさを強く感じましたが，この力を一時の瞬発力にとどめずに，充実した持続力として定着させていくことが，皆さんにとりましても会社にとりましても，極めて重要と考えるのであります。

また昨年は，体制の強化などを行いながら，電源や系統立地の推進に取り組んでいただきました。

その結果，東通原子力地点におきまして大きな進展がみられましたし，福祉型発電所の先鞭をつける能代火力の地域振興プランの公表や，第二山郷発電所などの運転開始にも至りました。原子燃料サイクル事業も進捗しましたし，基幹系統に関しましても，大潟幹線が運用開始されるなど，着実な進展がみられました。

新規事業化という観点からは，新潟と仙台間の天然ガスパイプライン計画への参加や，熱供給事業，さらには東北インテリジェント通信の設立が実現しました。これらは東北地域における社会生活の基盤，いわゆる社会システムの形成に大きく寄与するものと考えております。

竜飛ウィンドパークの本格的実証試験開始など，技術開発や地球環境問題などの面におきましても，大きな前進がありました。

新たな広域運営につきましても着実に条件整備を進めてきました。

このように，「21世紀に向けての経営発展基本構想」で示されております３戦略課題が，相当程度実現をみてきたと評価しております。

そしていずれの成果も，単に一部門あるいは特定の組織の努力によるばかりではありません。毎日毎日の皆さんそれぞれの持ち場におけるたゆみ無い努力の成果なのであります。電力の安定供給やお客さまとの対応，用地業務や建設業務など，東北電力全体のチームワークの中で生み出された成果なのです。心から感謝を申しあげます。

昨年１年間を総覧して申しあげれば，バブル経済崩壊後の景気低迷という，厳しい経済環境にはありましたものの，沸々と燃えたぎるマグマが地表に顔を出し，小高い台地を形づくったかのように，一段と企業力が高まった年ではなかったかと考えております。

国際社会の展望

次に，これからの経済社会の先行きなどを展望してみたいと思います。

世界に目を向けてみますと，東西冷戦終結やソビエト連邦崩壊などの国際関係の質的変化によって，国連を中心とした世界の一体化，いわゆるグローバリゼーションが進んでいます。しかしその一方で，民族主義，あるいは宗教間対立による地域規模での紛争が数多く発生しており，より複雑な世界の構図が描かれております。

経済面では，ＥＣの統合のような経済のブロック化が活発化しております。一方におきましては，世界規模での貿易の自由化を目指す，ウルグアイ・ラウンド交渉も精力的に進められていますが，農業問題におけますアメリカとＥＣあるいは日本との対立など，その進展は必ずしもはかばかしいものではありません。

日本・東北の展望

日本におきましては，昨年からの景気低迷に，大きな懸念が持たれているところであります。

先行きにつきましては，政府の総合経済対策が効果を見せて，今後ゆるやかな回復に向かうという見方と，景気の回復は年半ば以降にずれ込むという厳しい見方とが，相半ばしているところかと思います。

また昨年は，いわゆる生活大国への変革を，わが国の経済運営の指針とすることが閣議決定されております。このなかでは，サービス残業の防止と時間管理を徹底しながら労働時間の短縮を目指すなど，生活大国実現へ向けての，企業としての取り組みが求められているところであります。

同時に，高齢化社会にともなう労働力人口の減少，あるいは終身雇用制のゆらぎなど，日本経済，とりわけ戦後経済の発展の原動力となってきました，日本的経営が転機を迎えつつあるとの感じを強くするのであります。

さて，東北につきましてはどうかと申しますと，国土の均衡ある発展や，特色のある質の高い生活空間の実現という，国土政策，あるいは経済政策のなかで，東北の持つ意味というものが，一層重要性を増すものと考えるところであります。

その方向性を現実のものとしていくためにも，高速交通体系などの整備の促進とともに，情報発信能力や都市機能の充実など，いわゆる社会システムを高度化しながら，東北の力と魅力とを高めていくことが，今後の大きな課題で

あろうと考えるのであります。

人間と自然や技術，文化などが心地好くハーモニーしながら，ゆとりのある生活が可能ないわゆる共生型国土を，この東北の地にぜひ実現していきたいものと考えております。

平成５年経営の力点

今まで申しあげて参りました，諸情勢などを記憶の隅にとどめていただき，次に平成５年の主要施策４点に関して申しあげます。

主要施策の第一は**「需給の安定を目指した電源開発・系統立地と広域運営の強力な推進」**であります。電源開発につきましては，「国をあげて支援すべきプロジェクト」という位置付けがなされるなど，わが国の総合エネルギー政策の中心となっております。電源地点におきましては，各地点それぞれに厳しい課題に直面しているのですが，課題解決に一層の努力をお願いします。

また，広域運営につきましては，東北の開発ポテンシャルを活かした，地域への寄与や当社へのメリット，さらには日本全体のなかでの当社の役割という，広い視点での取り組みと理解とをお願いします。

第二は**「収支安定を目指した原価低減対策の展開」**であります。電源開発，あるいは系統立地などの設備投資に伴う，資本費の大幅な増加に対しまして，効率性に立脚した諸対策を展開して頂きたいと思います。

合わせまして負荷平準化など，収益性を追求した需要対策への取り組みをお願いします。

主要施策の第三は**「社会・環境問題への積極的な対応」**であります。電力の安定供給と誠意あるお客さま対応，あるいは高度なお客さまサービスなどにより当社の存在価値を高めて頂きながら，合わせて，地域との信頼関係のより一層の緊密化にも取り組んで頂きたいと思います。また，地球環境問題につきましては，将来的な問題解決へ向けての，技術開発面からの取り組みはもとより，自分の仕事や日常の生活そのものが，この問題に深くかかわっているとの認識をぜひ深めて頂きたいと考えます。

その第四は**「ゆとり創造に向けた業務改革の推進と変革を担う人材の育成」**であります。

業務を遂行しながら，ゆとりを創出していくためには，業務自体の効率化と処理能力のアップが必要ですが，それらにはある限界があります。その限界が見えたら，次には思い切った業務の削減しかありません。従来業務の削減こそが創造的業務のための業務改革の第一歩であります。

そして，業務改革と一体化しているのが時間の管理であります。とくに最近は，先程述べましたように，労働時間の管理に対する社会的関心が極めて厳しくなっております。

ぜひ，業務の思い切った削減と，労働時間の管理とを徹底しながら，ゆとりを創造し，それを明日への活力源にしてもらいたいと考えます。管理監督者のリーダーシップよろしくお願いします。

同時に，企業の力の源泉であり企業変革の担い手である，人材育成にも積極的に取り組んで頂きたいと思います。〝技術の東北電力〟を発展させていくための，技術の継承などとともに，個性を伸ばしながら，社会的にも価値の高い人材の開発が必要かと考えます。個人として，企業人として資質の高い東北電力マンでありたいと念願します。

企業進化論

当社は今年の５月で満42才を迎えます。この42年とは，皆さん方と数多くの優れた諸先輩が，当社を昨日よりは今日，今日よりは明日と育て続けてくださった軌跡であります。そして，沸々と燃えたぎるマグマが地表に顔を出し，小高い台地を形づくったかのように，一段と当社の企業力が高まったわけであります。言わば当社自身が進化を続けてきたのであります。

進化という言葉は，イギリスの生物学者ダーウィンなどの学説でおなじみかと思います。

生物の進化の要因は，自然界における生活条件に適合した生物が生存し，適しないものは滅びるという自然淘汰と，人間が意図的に自分の目的に合ったものを選択していく，人為淘汰との二つからなるというのであります。

企業が成長発展していくこと，つまり企業進化を果たしていくことは，まさにダーウィンの進化論と同一と思うのであります。

時代時代によりまして，経済環境が変化しますし，技術の進展もあります。社会環境あるいは労働環境や消費者意識なども変化します。そのなかで進化を果たしていくためには，常に最適な選択と，そのための淘汰を繰り返していかなければなりません。淘汰のないところに進化はなく，進化とは創造することの積み重ねと同一です。

私はこれを「淘汰のもつ創造的な力」と位置付け，企業の進化のための不可欠の力と考えます。

そして今年は，21世紀に至る経営展望などを明らかにしながら，これまで築き，高めてきた企業力の土台の上に，新たな進化への道を拓いていきたいと思います。

夢を力に、逞しい歩みを
―明日への高い理想を掲げ―

さて皆さんは，この休み中にお酒を楽しまれた方も多かったことでしょう。お酒はやはりお米のおいしい東北のお酒がよいようです。この「酒」という字の右側，つまり〝つくり〟の部分は今年の干支であります酉（とり）という字で，お酒を盛る器をあらわします。

私自身この休み中，適量のお酒を楽しみながら，来る年，去る年，いろいろと思いをめぐらしました。

厳しさに直面したこと，あるいは私自身が努力していかなければならないこと等々ですが，最後に浮かんでくるのは，雪深い土地で一生懸命仕事に取り組んでいる皆さんの姿であり，温かいご家庭で家族の方々と笑い合っている皆さんの顔であります。

種々申し上げて参りましたが，皆さんの笑顔にまさる美酒―おいしいお酒―はございません。今年１年，玉川会長のもと，皆さんとともに笑顔で明るく，しかも逞しく歩んで参りたいと思います。

先程申し上げました，新たな進化の道を目指すという気持ちを込めまして**『夢を力に、逞しい歩みを―明日への高い理想を掲げ―』**という言葉を今年のモットーとします。

最後になりましたが，ご家族ともども健やかな１年となりますよう，心からお祈り申しあげ，私の挨拶と致します。ありがとうございました。

特集

考えてみませんか？ボランティア活動



高齢化社会への歩みが進むにつれ，ボランティア活動に対する関心も高まってきています。

当社が全社的な意識改革運動として展開したWAVE21キャンペーンにおいても，これまで培ってきた自分の能力や経験を生かしたいという声や，従業員個人のボランティア活動を支援する制度の導入を求める声が聞かれました。

これらの声に応え，社会における企業の責任を一層積極的に果たしていくため，平成４年４月からボランティア休職制度を導入しました。

私たちは自分の仕事を通して社会に貢献していますが，私たちにできることはそれだけなのでしょうか。私たちは会社の従業員である前に，社会に生きる人間です。すべての人々が，ともに住みやすい希望の持てる生活の場を得て，さらに豊かな社会や快適な生活をつくりあっていくことが必要なのではないでしょうか。

今月はこのボランティア活動について考えてみたいと思います。

PART1

東北電力社員のボランティア感度

社員200人に聞きました

当社の社員はボランティアに対して，どのような意識を持っているのでしょうか？昨年11月から12月にかけて，社員200人へボランティア活動に対する意識調査をしてみました。現在活動中の人やこれからやってみようと思っている人，そしてほとんど関心のない人など，いろいろな人がいるようです。あなたはどうでしょうか？

Q1 あなたはボランティア活動をしていますか？

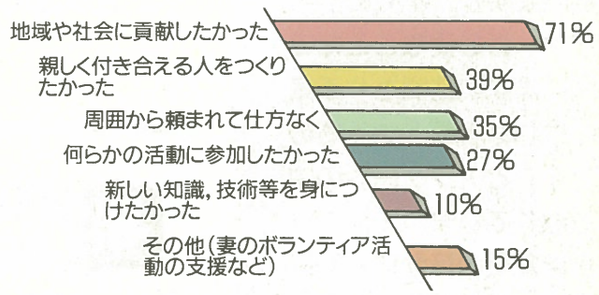
- Yes：している 20人
- No：していない 162人
- etc：その他（以前にやっていたことがあるなど） 18人

Q2 ボランティア活動をしている方へ。それはどんな内容ですか？

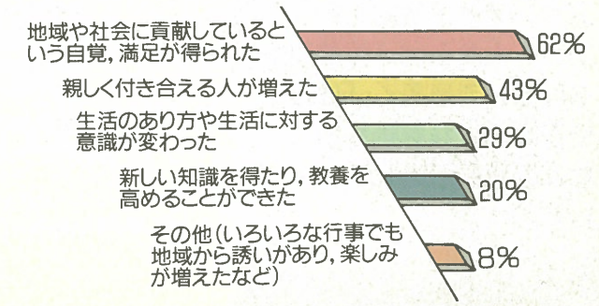
（Yesと回答した20人）

- 町内会主催の空缶拾い
- 障害者施設への作業手伝い
- 老人養護施設での介護
- 子供会の野球指導
- 河川・海岸の清掃
- 冬期間の通学路の除雪
- 青少年の非行防止援助活動
- ボーイスカウト運動
- 中学校部活動指導
- 仙台市国際交流ボランティア参加
- フットベースボールの審判活動
- 福祉募金など

Q3 ボランティア活動を始めた動機は何ですか？（複数回答）



Q4 ボランティア活動をやって良かったことは何ですか？（複数回答）



意識調査の結果から

１割の人が「ボランティア活動をしている」と答えています。また，現在「ボランティア活動をしていない」人でも，今後ボランティア活動をしていこう，もしくは考えてみたいという人が７割以上もいました。社員のボランティア活動に対する関心は，相当高いといえます。

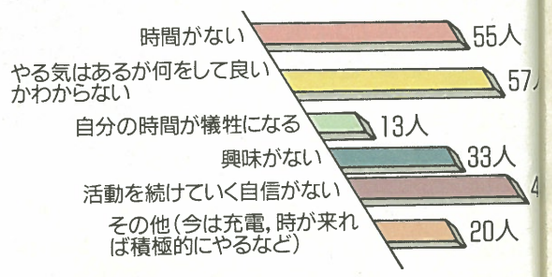
しかしやる気はあるが時間がない，周囲の理解を得るのが大変，何をして良いかわからないという人がたくさんいました。

ボランティア活動をやっているある男性が，「ボランティア活動を行うには，家族や会社の理解も当然ですが，本人のやる気が一番必要なことだと思います。時間もやる気があれば調整がつくものです」とアンケートの中で触れていました。

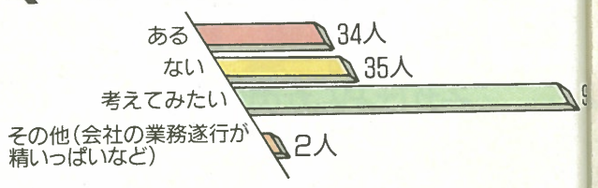
またそのほかに，現在，ボランティア活動を行っている人からは，「背伸びをしないで息長く」「はじまりは小さな勇気から」などの意見が寄せられました。

していない No と回答した162人

Q5 現在，ボランティア活動をしていない方へ。ボランティア活動をしていないわけは？（複数回答）



Q6 今後，ボランティア活動をしていこうという考えは？



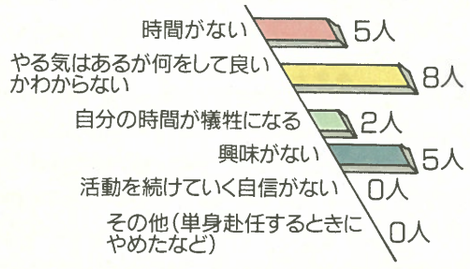
Q9 200人の方全員にお聞きしました。ボランティア活動を行うために絶対必要と思われるものは何でしょうか？

- 家族の理解と制約されない時間
- 自分自身のやる気，根気
- 住みやすい社会づくりをしていこうという気持ち
- 自分一人でなく，仲間を多くつくること
- 一時的な興味本位やひやかしではなく，どれだけ相手の身になって奉仕できるか
- 何のためにボランティア活動をするのかという自分の目的意識
- 単身赴任だと時間がとれないため，会社の理解が必要と思う
- 会社人間から社会人間になること
- 小さなことでも誰かの役に立てることを探し実践してみること
- 活動できるだけの自分の健康
- 愛
- 何のためのボランティア活動なのかという目的をしっかり把握すること
- 人を思いやる気持ち
- 一人はみんなのために，みんなは一人のためにという気持ち

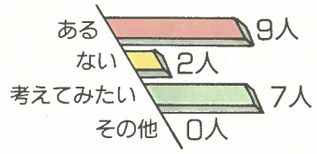
（寄せられた意見の多い順）

その他 etc と回答した18人

Q7 現在，ボランティア活動をしていない方へ。ボランティア活動をしていないわけは？（複数回答）



Q8 今後，ボランティア活動をしていこうという考えは？



ボランティア活動の定義

①人として助け合い励まし合う活動

②心と心のふれあいを大切にする活動

③地域の中でお互いに支え合う活動

（全国ボランティア活動振興センター）

ご存じですか？あなたのまちの社会福祉協議会

社会福祉協議会はあなたの良きアドバイザー…

“ボランティア”「興味はあっても自分はなかなか一歩が踏みだせない」「どうしたらよいのかわからない」アンケートからもこうした意見がたくさん寄せられました。

各地域にある社会福祉協議会では，このような人たちのために，ボランティア活動をしたい人からの相談を受けたり，ボランティア活動に必要な知識や技術習得のための講座や研修会を開催しているそうです。

社会人でも参加できるように，夜間や休日の講座を開催しているところも多いということです。興味のある人は一度問い合わせてみてはいかがでしょう。

社会福祉協議会ボランティアセンター

お近くのセンターを紹介してくれるそうです。

青森　(0177)23-1391
岩手　(0196)23-6136
秋田　(0188)64-2711
宮城　(022) 225-8476
山形　(0236)22-5805
福島　(0245)23-1251
新潟　(025)228-5511
社会福祉法人
全国社会福祉協議会
全国ボランティア活動振興センター
(03)3581-4656

PART2

私たち こんなことをしています



坂本 喜三郎さん
さかもと きさぶろう

宮古技術センター
業務管理課

坂本さんは，昭和51年以来16年間にわたって宮古市の交通指導員として，毎週月曜日と土曜日の早朝から近くの交差点に立ち，通学途上の子どもたちの交通事故防止に努めています。

当時，交通指導員をしていた先輩の後任として始めた坂本さんは，「何よりも日常の活動を通じて地域のみなさんと対話する機会が多くなった」と感想を話してくれました。人と人とのつながり，そして信頼し合う心というものを大切にしている坂本さんにとって，地域から頼られているということを肌で感じながら活動を続けている様子がうかがえました。

毎朝子どもたち一人ひとりと交わす「おはよう」のあいさつが坂本さんの楽しみの一つになっているそうです。

「お祭りの時などは，酔っぱらいに絡まれたり，運転手に怒鳴られたりと苦労することもありますが，せめて自分の暮らす町からは交通事故がなくなってほしい」と願いながら交差点に立つ坂本さん。これから寒さも一段と厳しくなってきますのでお体を大切にして頑張ってください。





田代 昭自さん
たしろ てるじ

三条営業所
総務課労務係

視覚障害者のために本の朗読奉仕を続けている田代さんは，「五十路に近づいて退職後の自分を考えていたある日，市政だよりに載っていた朗読奉仕『虹の会』の小さな記事に胸の高鳴りを感じたんです」と活動を始めたキッカケを話してくれました。

仕事の合間に自宅で朗読してテープに録音するという地道な活動のため，１冊の本を完成するまでには，何か月もの日数がかかるそうです。録音されたテープは，審査を受け新潟県の点字図書館に収められるそうで，「テープを聞いてくれる方の喜ぶ顔を思えば，こんな地道な苦労も苦労と思わずに続けることができるんです」と明るい笑顔で話してくれました。



「虹の会」10周年の記念パーティー（写真中

「朗読奉仕は，視覚障害者のための小さな奉仕活動にすぎませんが，この活動によって同じ目標を持つ者同士の出会いがあって，喜びや感動も分かちあうことができます。この活動は私の人生にとって修行の場でもあるんです」と力強く話してくれた田代さん。

退職した後も，朗読奉仕を生きがいにしていきたいという田代さんがとてもまぶしく輝いてみえました。



山形営業所

平成４年４月からボランティア休暇制度が導入されていますが，山形営業所では有志社員がこの制度を活用して，老人福祉施設の花見を開催した際の老人介護に当たったほか，　輝きのべにばな国体（全国身体障害者スポーツ大会，写真左）にもボランティアとして参加しました。

広がる笑顔の輪

「ボランティア活動」と聞くと，なんだかとても〝立派〟で〝大それたこと〟をしているように聞こえますが，果たしてそうでしょうか。当社の従業員の中にも，休日などを利用して積極的にさまざまな活動をしている人たちがいます。ボランティア活動は自分の世界を広げるチャンスでもあるようです。



堀 正治さん
ほり まさじ

小野営業所
お客さまサービス課

16年以上も家庭婦人バレーボールの指導をしている堀さんは，あるチームの監督をしていた当時のことを，「日頃一生懸命に練習をしてきた選手ばかりですから，試合中はコートに出して思いっきりプレーさせたいと考え，登録選手全員を出した結果，１回戦で敗退した時は，みんなからさんざん言われました」と苦笑いしながら振り返ってくれました。

しかし，このチームが堀さんの指導によって力をつけていき，優勝を勝ち取った時の感激は堀さんにとって最高の思い出になっているそうです。

堀さんは，このほかにも青少年の非行防止や校内暴力を防止するため地元の協議会委員として活躍しているほか，環境浄化推進委員としてゴミ分別収集の指導を行うかたわら，町内の収集所の整理整とんに努めるなど，資源リサイクル活動にも積極的に取り組んでいます。



指導に汗を流す堀さん（写真右）

「ボランティア活動なんて言いますが，決して難しいことではないと思います。普通に地域の中で暮らす人間だったら，自分の住んでいる町が，少しでも明るく楽しい町になればいいと思っていますし，それを自分がわずかながら実践しているだけだと思います」と話してくれた謙虚な堀さんの姿が印象的でした。

村上 幹夫さん 青森支店 営業・配電部
むらかみ みきお



「平成２年の春に，八戸営業所の窓口を改装することになり，ギャラリー化を提言したところ，なぜか提言者が面倒を見ることになって……」と話す村上さん。

村上さんは，社内募集の結果決まった「おでんせギャラリー」（南部弁でいらっしゃいませの意）でロビー美術展を自ら提唱し実践しています。

最初は八戸営業所において，地元在住作家シリーズの展示を行っていましたが，一企業のギャラリーの開放は県下でも初めてで，各地から大きな反響を呼びました。

この活動を他企業や官公庁に呼び掛けたところ，多くの賛同を得て，毎年12月の１か月間，それぞれのロビーを開放した『八戸市ロビーツアー』へと芸術文化の輪が大きく広がっていったそうです。昨年12月で３回目となったこのロビー展は，回を追うごとに参加する団体も増えてきて，32団体76会場での開催となったとのこと。

去年の７月に青森市に転勤した村上さんは，「勤務地が変わったことで多くの時間と労力もかかりましたが，このギャラリーに対する地域からの期待が感じられ，ついつい力が入ってしまうんです」と話してくれました。今後は，「いかにして，この活動を育成し，定着させるかが課題」という村上さん。地元作家の創作意欲の向上と地域文化の盛り上がる意欲の灯を消してはならないということを情熱的に話してくれました。

PART3

インタビュー



宮城県社会福祉協議会
地域福祉部長
柏葉伊夫（かしわばただお）さん

一人ひとりが少しずつ力を出し合って

PART３では，ボランティア活動の実情を知るため，宮城県社会福祉協議会を訪問し，地域福祉部長の柏葉さんから，お話をお伺いしました。

柏葉さんにとってボランティアとはどういうものですか

まず言えることは，相手の苦しみや痛みを理解し，お互いの信頼や合意を得ることができるものだと思います。

それから，人間としてどんなふうに生きていくかという，その人個人の生き方や人間としてのあり方を求めることによって，自己実現ができるということだと思います。自分を高めていくチャンスだと考えてもいいと思います。

ボランティア活動を通して，社会的に弱い立場の人たちと一緒に，住みやすく，明るい社会をつくっていくことができると思います。

ボランティア活動をするうえで大切なことは何でしょうか

相手の求めているニーズ，気持ちを尊重することだと思います。こちらがしてあげる立場，向こうがしてもらう立場というように，一方的にお互いの立場をつくってしまいがちになるんですが，そうすると，押しつけがましいものになってしまうんです。

それと，家族や回りの理解を得ること，相手の秘密をもらさないことや約束を守ることも大切なことです。

これからボランティアをしてみようかと考えている人にアドバイスをお願いします

難しく考えるのではなくて，今身近に困っている人がいないかどうかを考えてみてはどうでしょうか。たとえば，福祉施設のお年寄りの話し相手になるのもいいでしょう。ひととき語り合うことだけで，お年寄りがそれを楽しいと感じることができれば，それは，生きていくことへの応援になるのです。ちょっと公園まで散歩に行った時などに町内のゴミ拾いをするのも活動の一つだと思います。自分のことだけではなく，ちょっと相手のことや地域のことを考える，相手の生活に思いを寄せてみるわけです。

それから，一人ではなかなかできないことも，グループやサークルをつくって仲間と一緒にやっていくことも，息長く続けていくポイントだと思います。

最後に柏葉さんがボランティアにかかわってきた中での思い出をお聞かせください

昨年の夏，20人ほどの高校生と一緒に，心身障害者の施設を訪問し，遊んだり，話し合ったりしたんですが，時間がたつにつれて，お互いが自然に打ち解け合って，帰る時はみんな涙を浮かべながら，別れを惜しんでいました。

この時は，高校生を対象にしたもので女性の方が多かったのですが，ボランティア活動は，特定の人だけがたくさんすればいいのではなく，大勢の人たちが，少しずつ力を出し合うということが望ましい姿だと思います。

これからも，たくさんの方がボランティア活動を体験する場をつくっていきたいと思っていますので，機会がありましたらぜひ参加してみてください。







最近，ボランティア活動はライフワークの一つのテーマとしても位置付けられてきています。

定年後，社名や肩書がなくなった時に自分に何が残っているのかは，その人のそれからの生き方に少なからず影響を与えることでしょう。

13ページに掲載している「全国ボランティア活動振興センター」の定義からも読み取れるように，ボランティア活動を「奉仕」「自己犠牲」といった意味でとらえるのは正しくありません。

ボランティア活動は人から強制されるものではなく，「自分のために実践する」ことが目的で，それが「人のためになる」のは，あくまで結果にすぎません。

本来，このように個人の意思をベースにしたボランティア活動は最近，新聞やテレビでよく見聞きする「企業ボランティア」という言葉が表しているように，企業にも徐々に浸透をし始めています。

地域社会の住民の一人である企業に対しても，社会のさまざまな問題を共有する姿勢が，これまで以上に求められているのです。

私たちは，「東北電力の従業員」と「一市民としての個人」という両面を持ち，その活動の方法や形態は異なるとしても，地域への社会貢献活動に参加する動機や姿勢は，共通しているといえるでしょう。

解決しなければならない身近な社会問題を自分のできるところからかかわっていき，東北電力の従業員という枠にとらわれずに，地域社会に役立っていこうというボランティア活動の意義について，みなさんも一度考えてみませんか。

特別寄稿

組織の中のコミュニケーションのあり方

●著者紹介
堀（ぼり）　章男（あきお）　氏



昭和２年　名古屋に生まれる
昭和24年　同志社経専卒業，カゴメ入社
昭和47年　東京本部社長室広報担当
昭和54年　東京本部広報室長
昭和57年　退　　社
現　　在　堀章男広報事務所代表
主な著書　「企業広報の手引き」（日経文庫）
「ベースボールにみるＰＲの研究」（誠文堂新光）

現代は組織の時代であり，働く人たちのおよそ８割が企業や行政機関，各種団体などの組織の中で働き，報酬を得ているといわれています。

東北電力という組織の中で，職種も違い勤務地も各地へ散らばっている私たちにとって，人と人をつなぐコミュニケーション，企業としてのコミュニケーションというものは，仕事を進めていくうえでも大変重要なものだと思います。

そこで，こうした組織の中で働く私たち東北電力社員のコミュニケーションとはどうあるべきか，ひいては東北電力のコミュニケーションはどうあるべきなのかを企業の中の広報活動やコミュニケーションについて，専門的に研究されている堀章男氏に執筆していただきました。

情報を共有し合うことで一体感を！

企業も人間と同じように，「自分たちのまわりの人たちとの，よりよい関係づくり」が必要なことは言うまでもありません。

それに，企業は人による組織体ですから，企業の中の人たちの考えなり，行動を一つにまとめ上げていないと，一人ひとりが思い思いの考えで行動していたのでは，企業としての考え方，つまり企業理念をハッキリさせていないと，周りの人たちの理解をうるわけにはいきません。

そのために，企業は，企業理念のもとに，社員の言行を一致させて，理解を求めることに努めています。東北電力においても，さまざまな職種の人たちが，それぞれの仕事を通じて企業を理解してもらうという目的のために，努力しているわけです。

このように企業が一体となった態勢をつくり上げることは，言うは易くても，なかなか一朝一夕にはでき上がるものではありません。

それもただ強制することで徹底させることではホンモノとはいえません。社員が一心同体になりきろうと努力するためには，社員の一人ひとりが，情報によってリードされながら，社員もまたそのために必要な情報を求めながら，一つのものに結びついてゆく，言うなれば「求心的コミュニケーション」と社内におけるコミュニケーションを，私はこう考えております。

つまりコミュニケーション活動によって社員の心を企業の核となる「企業理念」に向かってしぼり上げてゆくことによって，それを企業のマンパワーに変えてゆくコミュニケーションということです。

そのためには，社員が同じ情報を持ち合うことで「社内の一体感」がつくり上げられるわけです。企業にとって重要な課題の一つでもあるのです。同じ情報を持ち合うことで，同じ考え方を持ち合うために努力するわけです。情報の共有化がアイデンティティーの条件といえます。

企業のイメージの石垣づくり

企業における組織は「石垣」のようなものです。社員の一人ひとりに個性があるように，一つひとつの石の形は異なっていても，それが組み合わされて，きれいな石垣となるように，企業の組織がつくられて，その中を「情報」が血液のように循環されます。

その情報は広報を拠点として発進され，企業の一人ひとりに正しく伝えられているかどうかも，見届けられなければなりません。こうして企業の思想は，社員の心と心とを漆喰（しっくい）のように固める役割を果たします。

また社員の人たちは，一人ひとりが自分たちの仕事を通して地域の人たちとのかかわりを持っています。そうした日常活動の中で接した情報を，そのまま企業につなぐことで「外部から企業がどう見られ，どう受け止められているか――」を確かめることができます。

言うなれば，情報は「鏡」のようなもので，正しい情報によって，正しく磨かれなければなりません。

このように企業は自らの素顔―正しい情報―を映してみる「鏡」を持たなければなりません。この正しい情報でいかに企業の素顔を映し出すかは社員一人ひとりの役割といえます。

また一つの情報について，その受け取り方も扱い方をも正しくしてゆくには，同じような考えを持ち合うことが必要であるわけです。

こうした情報の扱い方を正しい方向へむすびつけてゆくためにも，企業理念というものが社員の心の拠り所でもあるわけです。

人々の生活の中での「電気」が，ひとときも欠かせないように，企業は情報を提供し続けるわけですが，社内で組織的に情報を流し合うカタチをとるのも方法ですし，企業から社員に対してテーマを掲げて，応募を求めることで社員間の情報に勢いをつける―言うなれば「社内情報ダムづくり」とでもいえましょう。こうして年に一度，全社的に発表会を催すことで，ダムの水を「放流」させることもイベントによる意識の活性化がはかられると思います。

今日の雪は　明日の水

このように東北電力という巨大な情報ダムの中へ貯えられる一つひとつの情報のほとんどは，社員の一人ひとりによって集められ，まとめられ，つくられたものにちがいありません。

それらの情報が企業の知恵となりパワーとなって，ふたたび社員の日常活動の中で，地域へのサービスとなってあらわされてゆくものです。

ちょうど「今日の雪は，明日の水」というスローガンのように，情報という雪を，明日の水（パワー）にすることによって，地域とのコミュニティづくり，つまり，企業と地域社会との情報交流をはかることによって，企業の役割を理解してもらえるものです。そして相互に新しい関係づくりの機会をつくり出してゆくことができるのです。

先に述べましたように，石垣の石の一つひとつが組み合わされて企業を支え続けるように，企業と社員との関係とは，情報を通して同心円を描くような運命共同体づくりを目指すことになるのです。

そして企業と社員とが情報をどう生かしてゆくかということで，地域との一体感をつくり上げるコミュニティの成果を確認し合うシステムづくりを磨き上げてゆくのです。

社員の一人ひとりのイメージが，企業のイメージに直接つながっているのです。だから，社員一人ひとりが，企業のイメージをつくってゆくのです。イメージというものは生きものです。日々新たな社員の仕事への取り組み方が，いきいきとした企業の，東北電力のイメージをつくり上げているのです。

PAL奮闘記 ～宮城～

こ～んなこともしてみたい！

当社の原子力ＰＡ推進者，ＰＡＬの活動を紹介して，私たち一人ひとりのＰＡ活動に役立てていこうというこのコーナー。

今月は宮城支店管内のＰＡＬ５人のみなさんに集まっていただき，日頃各所で実践していることや，今後の効果的なＰＡ活動の方法などについて話し合ってもらいました。

明朗活発でハツラツとした５人の会話の中に，あなたが活動していくうえでのヒントが隠されているかもしれません。



向かって左から，宮城支店営業・配電部　三塚　妙子さん
〃　〃　寺崎　菜百子さん
仙台営業所お客さまサービス課　大野　けい子さん
古川営業所料金課　伊藤　敏子さん
仙台営業所お客さまサービス課　山田　美保さん

カワイイすけっとミニパル登場

山田：みなさん久しぶりですねー。お変わりありませんか？

三塚：こういう機会でもないとなかなかそろいませんね。

どうですか，最近は，しっかり活動してますかー？

一同：う～む…。

伊藤：日常業務の合間だからなかなか思うようにいかないですよね。

大野：活動自体もこのごろマンネリ化してきてるしね…反省！

寺崎：各所の日頃の取り組みの中で，最近面白そうなことしているところはありますか？ＰＡＬとして，逆に周りからすごく刺激を受けたとか。

大野：仙台営業所では各課に一人ずつ，ＰＡアシスタントの女性，通称「ミニパル」をおくことになったんですよ。所内の意識高揚と，エネルギーのことを話せる女性を少しづつ増やしていくことが第一のねらい。

具体的な活動はこれからですが…，何か面白そうなことができそうです。とにかく仲間が増えて頼もしい！

まじめにPA…やがて血となる肉となる

伊藤：古川営業所では各課の朝会のとき，〝聞いてください「私のＰＡ」〟というのを実施しています。各課のミーティングで，その日の係が自分なりに勉強してきたことをレジメにもとづいて発表するんです。

山田：あら，それは面白そうですね。発表は全員がするんですか？

伊藤：管理職も若い人も，女性も，所員全員が対象です。たいしたもんですよ，よくここまで勉強したな～って思うような立派な内容のものがたくさんあります。もう，こうなっちゃうとＰＡＬ顔負けですねー。

寺崎：ほんとは，上から指示があるのを待ってるんじゃなくて，そういうことを私たちＰＡＬが仕掛けるくらいでないとダメですね，そういう心意気をいつも持っていたいですよね。

伊藤：探せばやれそうなことっていくらでもあるのかもしれないですね。

▼古川営業所で毎朝各課で実施している〝聞いてください「私のＰＡ」〟の様子。話す内容は，最近のニュースから素材をひろうなど，より実践的なものを取り上げている。



一同：ようはヤル気ね。(わかっちゃいるんだが…)

山田：全社員の見学会もやったけど，地域の皆さんに語りかける前に，まず自分たちで勉強しなくちゃね。それに身内対策にも力を入れるべきじゃないでしょうか。

まずは、社宅の奥様に仕掛けちゃおう

三塚：そうですね，以前から思っているんですけど，社宅の奥様たちを対象にＰＡ講習会を開いてみてはどうかしら？だいたい身内の人の十分な理解を得られないで，ＰＡするというのは，難しいと思うの。

大野：仙台のホームコンサルタントは時々社宅に伺ってホーム講習してますが，エネルギーの話も若干しているようですよ。でも，あまり突っ込んだところまで話してもらうのは，今の業務の性格上ちょっと難しいですね。

寺崎：そうかー，じゃあこういうのは？　ただ「ＰＡの講習会やります」っていっても面白そうじゃないから，ホーム講習に代わりばんこに社員がくっついていって，講習の合間についでにＰＡする…エネルギー全般について面白くわかりやすく。

大野：ホーム講習とタイアップするというのはいいかもね！

エネルギーの話なんて10分か15分程度でいいのよ。じっくり人の話を聞いていられるのはそのくらいが限度。

三塚：社員の身内の方だったらやさしく聞いてくれるでしょうし，若い人たちの話す練習にはいい機会かもしれないですね。

山田：人に教えるのが一番勉強になりますよね，社員にどんどん外に出てもらう機会をつくることですね。

三塚：仙台の若いミニパルさんなんかも，まずはそういうところで経験をつむと度胸がつくんじゃないかな。

寺崎：社宅の奥様ＰＡ強化月間！

伊藤：それ，私たちＰＡＬが言いだしっぺになって，上手に仕掛けられないかな…

一同：できるところからチャレンジしてみようよ！



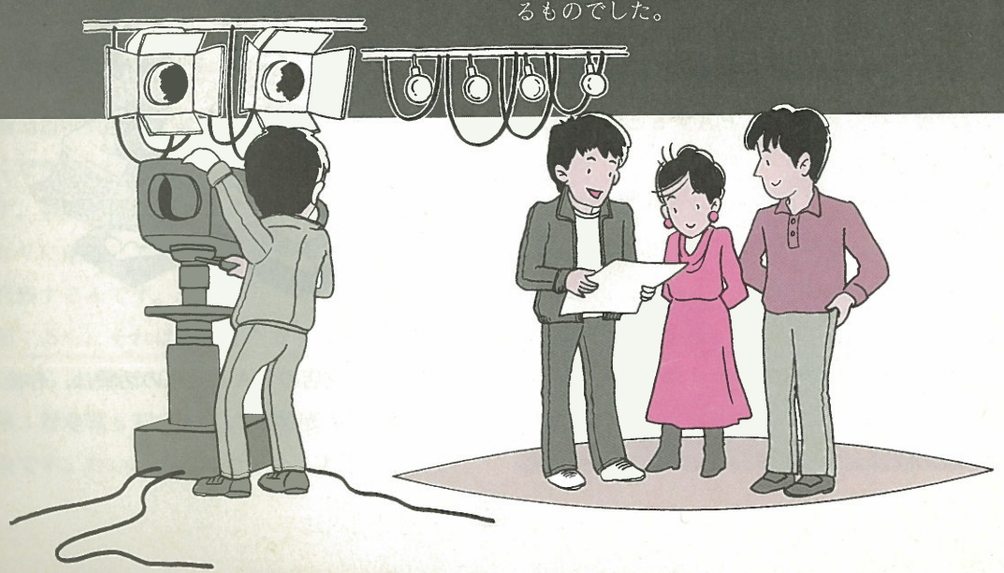
———宮城支店のＰＡＬ５人の活躍は，今後も一層期待できそうです。

CM制作の現場から①

～3回シリーズ～

当社はこれまで，良好な企業イメージの形成を図る一環として，テレビを活用した広報活動を展開してきています。現在も，コーポレートソング『瞳は未来を映してる』『君は風の中に』をコマーシャルソングとして使用するテレビＣＭを制作中です。

そこで，今月号から３回にわたって，テレビＣＭをどのような考えのもとに制作しているかについて，ＣＭ制作の裏話なども交えながら紹介します。



社内の声（WAVE21から）

『WAVE21』キャンペーンの中では，当社のテレビ番組・ＣＭに対して350件を上回る意見が寄せられました。

テレビＣＭに対する意見の内容は「何を訴えたいのか良くわからない」「タレントを使え」「ストーリー性のあるＣＭをつくれ」「ＪＲやＮＴＴを見習え」「イメージダウンにつながるダサイＣＭが多い」などさまざまでしたが，大方の意見を要約すれば『東北電力のＣＭは全然おもしろくなく，インパクトが足りない』という否定的なものが圧倒的でした。

しかし，これは反面，当社が企業イメージアップ（イメージチェンジ）のために何をするべきかということを社員の皆さんが真剣に考えていることの表れであり，またテレビＣＭに対する期待が非常に大きいという受け取り方もできるものでした。

テレビCMの特性

テレビはほとんどの家庭にあり，今や「一家に２台」の時代です。また，視聴者にとってはスイッチをつけるだけで気軽に接することができるものです。つまり，企業が不特定多数のお客さまに「ものを言いたい」時には非常に効果的な媒体であるといえます。

今や実に多くの企業がテレビＣＭを放送しているのも，テレビが効果的な広告媒体であると認めているからでしょう。

■

また，テレビＣＭは，映像，声，音（楽）などがミックスされてできるもので，電波媒体は人間の「右脳」いわゆる感性に訴える媒体といわれます。これに対して，活字媒体は人間の「左脳」，いってみれば理性に訴える媒体といえるでしょう。

赤ちゃんはよくテレビに反応することがありますが，新聞などの活字にはテレビに対するような反応を示さないことからも，テレビが「感性に訴える」媒体であることはうなずけます。

■

テレビＣＭはほとんどが15秒，30秒の世界です。短時間の間に情報を伝え，視聴者に印象づけなければなりません。これも，テレビＣＭの大きな特徴の一つです。

そのため，情報の絞り込みが必要となり，あれこれと情報を詰め込み過ぎると何を伝えたいのか見ている方がわからなくなる危険があります。

■

こうした媒体の特性を考えると，テレビＣＭは短時間に視聴者の感性に訴えかける媒体ということができます。

なぜCMをつくるの？

さて，では何のためにテレビＣＭを制作するのでしょうか。多くの企業は自社商品の販売促進を大きなねらいとしています。競合他社の商

CM制作の現場から❶

品よりも自社商品を目立たせ，消費者の購買意欲を喚起するためには，テレビCMという形でPRすることが非常に効果的だからです。

新商品の販売開始時などにはテレビCMが最も効果的な販促戦略といえるでしょう。〝ビール戦争〟におけるCM合戦などは，その象徴的な例といえます。

こうして，販売促進戦略の中に広告戦略を位置づけることにより，膨大な広告費用をかけても商品が売れれば「売り上げ」となって回収できるわけです。

こうしたCMの多くには有名タレントを起用する例が多いのも，他社商品もしくは他社CMとの差別化を図る上で効果的だからであり，『キョンキョンのエアコン』『たけし&りえのカップラーメン』と覚えてもらえば早いわけです。

タレントも〝CM表現〟のひとつ

テレビCMの場合「どんな情報を伝えるか」はもちろん「どうやって表現して印象づけるか」ということが非常に重要です。

この「どうやって表現するか」の一つに〝タレント起用〟があげられます。先に触れたWAVE21の意見の中にもタレント起用に関する意見が多く出されました。多くの企業が好感の持てるタレントを自社CMに起用したがるのは，好感度の高いタレントのイメージが商品のイメージ（本来その商品が持っている機能や良い点とは別の次元）を押し上げ，ひいては広告主である企業の好感度にも結びついていくからです。

ただし，こんな話もあります。銀行業界が金融自由化に伴い，いっせいにテレビCMを流し出したとき，ほとんどの銀行が有名タレントを起用して〝イメージ合戦〟を展開した中で，ある銀行がアシカをキャラクターにしたCMを流したところ非常に好評で，イメージアップにCMが貢献したということです。つまり，アシカが居並ぶ有名タレントに勝ってしまったわけです。タレントCMが横行する中で，このCMはきっと視聴者の目に新鮮に映ったのでしょう。

また，ある企業が大物俳優を起用したCMの放送を間近に控えたとき，その俳優のスキャンダルが発覚し，そのCMはついにお蔵入りになったという話もあります。

タレントを起用する善し悪しについては意見の分かれるところでしょうが，CMを制作するうえで「どうやって表現するか」ということが非常に難しいということを物語っている一例です。

CMはだれも見たくない!?

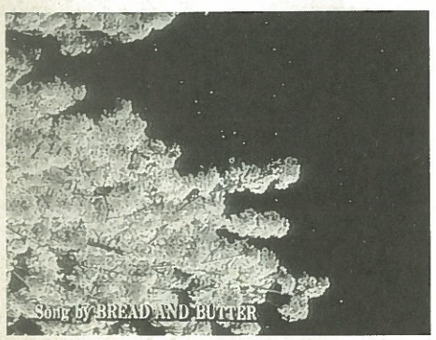
あるリサーチ会社が首都圏の1,000人を対象に行ったCM好感度調査によると，ひと月に1,200もの企業が約2,600種類のCMを延べ10万回以上放送しているにもかかわらず，消費者（視聴者）の心に届き『好き』と思わせるCMは一人あたりせいぜい4種類のCMで，実に約0.15％に過ぎないという結果が出ました。

1,000人中一人でも『好き』と反応するCMの数にしても約700で，全CMのうち30％程度だそうです。残り70％，1,700～1,900のCMは消費者がまったく好感を持たない無反応CM群であり，業界では「水子CM」といわれているそうです。

■

ここで，CMのもう一つの特性として「視聴者はCMを見たいと思って見ていない」ということがあげられます。私たちも自分を振り返ってみれば，テレビ番組ならば新聞のテレビ欄などをながめて，見たい番組を選んで見ますが，CMはいつ，どこで，どんなCMが流れるかなどは知る由もありません。

つまり，新聞のような活字媒体であれば，読者は情報を得ようという意思を持って読みますが，CMの場合は「視聴者は意思を持って見ているのではなく，電波を浴びせられている」のです。こうした状況の中で，短い時間で視聴者の感性に訴えかけ，さらに『好き』と思ってもらわねばならないCMの制作において「どうやって表現するか」ということがいかに大切なことかがわかります。



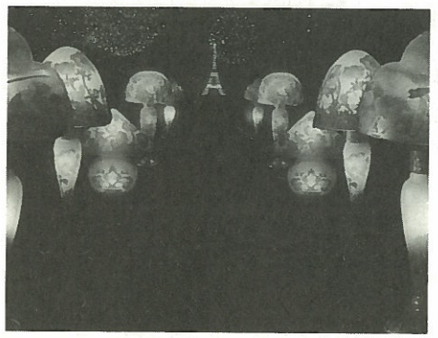
◀「四季のあかり」篇

日本人固有の自然光や色彩に対する感覚を再認識してもらうことをねらいとして制作した。このCFのために作ったオリジナル曲「そこにあかりが…」（歌：ブレッド&バター）が四季折々の〝あかり〟を一層美しく演出している。



「責任・情熱・信頼の顔」篇

実際の社員が登場し，気の安定供給という力会社本来の使命や員の仕事に対するひむきさ，誠実さをアール。制服の変更などのため制作に2年をやした力作。オリジル曲「元気ですか」歌：河島英五）には社から問い合わせが相いでいる。



◀「アール・ヌーヴォーの明かり」篇

当社の原子力をはじめとした電源開発の姿勢を，〝自然と人間の調和〟を目指す新芸術アール・ヌーヴォーのスタンドを通して訴求した。格調高い音楽のため重厚な仕上がりとなった。ナレーターは『Dr.スランプ』の〝のりまきせんべえ〟。

CM制作の現場から①

当社のCMは？

当社が商品広告を展開しようとする場合，扱う商品はもちろん「電気」です。深夜電力需要の造成による負荷平準化をねらいとした「電気温水器普及CM」などは，一種の商品広告といえるでしょう。

ただし，電気という商品を知らない人はいないでしょうから，当社の場合，自社商品（電気自体）を世間に『知らせる』という必要はさほどないと思います。商品広告的なCMをつくる上で必要なのはむしろ，電気自体を『意識してもらう』ことであり，電気が水や空気に例えられ，スイッチを押せば使えるのがあたり前のように思われている現在，電源開発や省エネルギー等を語る上でも電気を意識してもらう工夫（努力）はしなければならないでしょう。

■

また，「企業」としてはどうでしょう。当社は新潟を含む東北7県をエリアに地域独占の形で電力供給を行っている民間企業です。ですから，お客さまも当社も，電気の売り買いにおいては互いに相手を選ぶことはできない，切っても切れない仲にあります。

このような考えを踏まえ，当社はこれまで「東北電力の企業姿勢」を伝えるCMも制作してきました。この企業姿勢という「伝えたいもの」はもちろん目に見えません。ですから，これをテレビCMの形で「どうやって表現して印象づけるか」は非常に難しい作業です。

しかし，この「表現」のしかたによって，CMに好感を持っていただければ，それは「当社に対する好感」につながる可能性もあるわけですから，難しいながらも今後のCMづくりにおいて「東北電力の新しいグッド・イメージをつくる表現」に挑戦していきたいと思います。



◀「ドラマチック・エナジー」篇

電気の存在感アップをねらったCM。〝ドラマチックな人生を照らす電気〟を一組の男女の恋愛風景を通してドラマ仕立てで演出した当社としては異色作。CMタイアップ曲「Long distance love」（歌：池田聡）にも社外から問い合わせが相次いでいる。

只今CM制作中……！

冒頭に述べたように，現在，コーポレートソング『瞳は未来を映してる』（歌：忍者）と『君は風の中に』（歌：谷川理恵）をコマーシャルソングとして使うCM2本を，今年3月頃のオン・エアを予定に制作中です。

今回CMを制作する上で念頭においたことは，当社の企業イメージに関する意識調査でポイントが低かった「明るい」「おもしろみがある」「センスのよい」「若々しい」「親しみのある」「暖かみのある」といった当社に欠けているイメージを醸成し〝東北電力に『親近感』を持ってもらいたい〟ということです。

もちろん，テレビCMだけでこうしたイメージを向上させることができるわけではありませんが，このCMを通してお客さまに今までとは違ったイメージ（もちろんプラスの意味で）を当社に持ってもらい，当社の存在感アップにつながっていけば…，と思っています。

そこで，今回はCM表現上の〝一つの試み〟として〝キャラクター〟を採用することとしました。当社はこれまでも，「プラスぽうや」や電気温水器の「カバ家族」などをキャラクター的に使用してきましたが，今回はもう一歩踏み込んで，当社の考え方や心（ハート）などを投影させたオリジナル・キャラクターをデビューさせることとしました。

そして，このキャラクターが社員の皆さんはもちろん，地域の方々からも愛され，CM以外でも幅広く使っていくことができればと考えています。


忍者のみなさん


谷川　理恵さん

さて、そのキャラクターとは

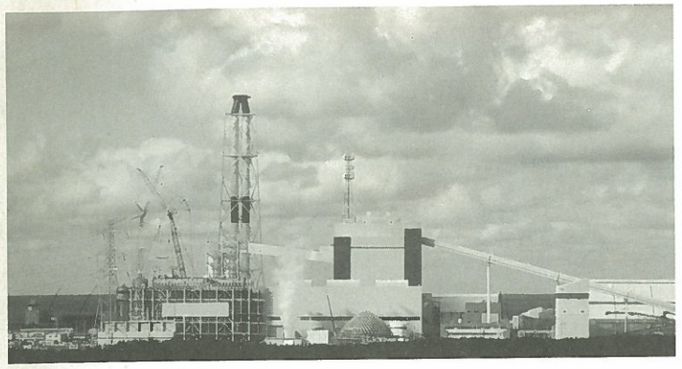
この続きは，キャラクターの紹介とともに，CMのねらい・訴求内容などを中心に次号でお伝えします。



乞うご期待！

このコーナーでは，これまで東北電力新聞で取り上げてきたニュースを掲載していきます。みなさんからの情報をお待ちしています。

能代火力発電所1号機，試運転開始

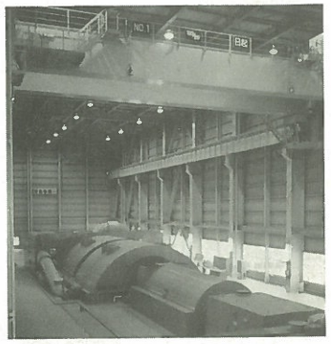


▲建設中の能代火力発電所（平成５年６月運転開始予定）

秋田県能代市に建設中の能代火力発電所１号機（出力60万kW）は，12月22日午後１時７分，電力系統に初併入（初送電）し，発電試運転に入った。

同発電所１号機は，昭和60年10月着工以来，順調に工事を進め，今年７月，ポンプやファンなどの所内受電以来補機の試運転を始めた。それ以降，各種試運転を行い，10月16日には，ボイラーに火入れを行った。

今後は，順次主燃料である石炭に切替えながら少しずつ負荷をあげ，定格出力の60万kWでの試運転を行い，平成５年６月には営業運転に入る予定としている。



仙台火力発電所の石炭受入量 2,000万トンを突破

12月15日，4,000トンの中国炭を積んだ石炭輸送船「ＡＭＵＲ（アムール） No.１」(キプロス船籍）が，仙台火力発電所の専用岸壁に着船し，同所における2,000万トン目の石炭受け入れとなった。

これは，仙台火力発電所１号機建設当時の昭和34年３月27日の「桜丸」による石炭船第一船入港から33年９か月目に当たる。

2,000万トンの石炭は，容積に換算して東京ドーム(124万立方メートル)の約15杯分に相当するが，平成３年度の仙台市内販売電力量約43億kWhの12年分を賄える量である。

同所は，昭和34年の建設試運転開始以来，石油全盛期にも一貫して石炭を焚き続け，昭和58年の石炭専焼化以降は年間約100万トンの石炭を使用し，当社のエネルギー源多様化の一翼を担っている。

昨年度は，国内炭35万トン，オーストラリア炭38万トン，中国炭20万トンの計93万トン，銘柄にして20近い多様な石炭を受け入れ，１日平均約2,600トンの石炭を消費した。

同所専用岸壁には，5,000トン級の石炭船が年間約200隻着船し，日曜祭日を除き毎日のように石炭の荷揚げを行っている。

2,000万トン目の石炭船は，12月15日に中国炭を運んできた「ＡＭＵＲ（アムール） No.1」となったもので，船長以下17名の乗組員を，発電所構内関係者が専用岸壁に出迎え，今後の石炭の安全受入れとプラントの安定運転を誓いながら，石炭受入量2,000万トン突破を喜び合った。



▲関係者一同石炭受入量2,000万トン突破を祝った(右は仙台火力発電所の青木所長)

「豊かな心情の世界」展開催

12月24日から27日までの４日間にわたり，本店グリーンプラザにおいて当社主催による「豊かな心情の世界」展が開催された。

当社は，地域繁栄への奉仕を経営理念の一つとして，地域の繁栄と文化の向上を願いながらさまざまな活動を展開している。グリーンプラザにおいても，開設以来，こうした活動の一環として地域社会との触れ合いを大切にしながら，東北の文化を考えていく活動を毎年行っている。

今回は，青森県弘前市で活動を続けている弘前大学教育学部付属養護学校の子供たちの造形活動を紹介し，作品の展示を行った。子供たちの作品は，どれもみな，みずみずしい感性にあふれた表情豊かなもので，見る人に強く訴えかける力作が並んだ。

オープンの日には，地元青森県内のマスコミ関係者が取材にかけつけるなど，大きな反響を呼んだ。

また，27日には，パネラーに宮城まり子さん（学校法人ねむの木学園理事長）と坂本小九郎さん(宮城教育大学教授）を迎えて,「この子らの造形の輝きを求めて」と題したシンポジウムも開催された。





全社員対象の 原子力発電所見学研修会終了

12月21日，本店社員の女川原子力発電所見学をもって，全社員を対象とした原子力発電所見学研修会が終了した。

当社は，原子力ＰＡ活動を全社運動として展開しているが，社員が原子力施設を実際に見学し，体験することにより，自信を持って積極的に草の根ＰＡ活動を実施する動機づけとし，さらに，原子力発電についての正しい知識を身につけ，説得力を持ってＰＡ活動を実施することにより，地域社会から原子力発電に対する合意形成を得ていくことを目的に実施したものである。

本見学研修会は女川原子力発電所を中心に行われ，福島支店と新潟支店はそれぞれ最寄りの福島第一，第二原子力発電所，柏崎刈羽原子力発電所を訪れ，発電所内部まで詳しく見学を行った。

見学した社員からは,「二重，三重の安全性を自分の目で見て，体験したことにより，自信を持って話をすることができる」,「発電所員の説明は，具体的な比較を交えたもので,分かりやすく,今後の参考になった」との感想が寄せられた。

今回の原子力発電所見学研修会実施により，ほぼ全社員が直接原子力発電所を見学したことになる。

掲示板

このコーナーでは、主に全従業員にお知らせしたい情報を掲載していきます。

国内外派遣研修候補者の募集

平成5年度海外語学研修および平成6年度国内外大学院留学研修の候補者を次の通り募集します。詳細については、『自己啓発ガイド』を参照するか、各店所教育担当もしくは人材開発課 佐藤(TEL911-3036)までお問い合わせ願います。特に、海外語学研修(ボストン大学)については、支店以下第一線機関社員を中心に派遣しますので、みなさん、ふるってご応募ください。

(募集人員、研修期間)

1．平成５年度海外語学研修
・ボストン大学英語プログラム　４名程度　平成５年５月～８月(約３ヵ月)
・エール大学英語集中コース　２名程度　平成５年６月～８月(約２ヵ月)
2．平成６年度国内外大学院留学研修
・海外大学院留学研修　若干名　平成６年６月以降の２年以内
・国内大学院留学研修　若干名　平成６年４月以降の２年以内

(応募資格)

1．入社年次
・平成５年４月１日現在入社満３年以上(平成２年度以前に入社)
2．語学力
・ボストン大学英語プログラム…ＣＣＭランク４級(TOEIC340)以上
・エール大学英語集中コース…ＣＣＭランク３級(TOEIC470)以上
・海外大学院…ＣＣＭランク２級(TOEIC600)以上
・国内大学院…国際大学を希望する者についてはＣＣＭランク２級以上
3．その他
・国内外大学院留学希望者は４年制大学の課程を修了していること。

(応募方法)

・推薦権限者の推薦をうけた後、研修応募申込書をTOEICその他の英語試験の証明書とともに人材開発課長に提出のこと(親展)。

(応募締切)

・平成５年２月15日(月)　人材開発課必着

(選考ならびに決定)

・海外語学研修については平成５年３月下旬までに、国内外大学院留学研修については、平成５年４月上旬までに書類審査、面接などにより候補者を決定します。

平成５年年間標語墨書の募集

1．標　　語　夢を力に、逞しい歩みを　明日への高い理想を掲げ
2．書　　式　墨書、左横書きとし、氏名または雅号を明記する。
　「力に」の後の点は「、」とする。「逞」の字体に注意すること。
3．紙の大きさ　半切　137cm×35cmとする。(厳守のこと)
4．書　　体　自由とする。(古字は使用しない)
5．応募資格　社員および職員
6．応募点数　１人１点とする。
7．送 付 先　総務部総務課(支店管内分は、支店総務部でとりまとめのこと)
8．応募締切　平成５年２月８日(月)必着とする。
9．選　　考　社内審査により優秀作品を選考する。
10．表　　彰　優秀作品の作者に賞状と記念品を、他の応募者全員に参加賞を贈る。
11．掲　　額　第一席の作品は、表装して本店役員室入口に掲額する。

Step Up

平成４年度昇格試験の実施

平成４年度昇格試験を下記のとおり実施することになりましたので、お知らせいたします。詳細については、各店所人事担当個所にお問い合わせください。

1．試験実施日程

(1)	応募受付開始	平成５年１月８日(金)
(2)	応募締切	平成５年１月29日(金)
(3)	試験実施	平成５年３月３日(水) 午後１時～
(4)	合格通知	平成５年３月29日(月)
(5)	昇格発令	平成５年４月１日(木)

2．受験資格
受験日現在、主事補、技師補の資格に満１年以上在任している者。

3．受験の申込
受験希望者は、受験申込書を所属長経由のうえ、人事担当個所に提出してください。
なお、受験申込書は人事担当個所に備えてあります。

4．受験案内
昇格試験の内容については、昇格試験受験案内に詳しく説明してありますので、受験希望者は人事担当個所に申し出てください。

当社が提供するテレビ・ラジオ番組

新サンデー・トーク

ごきげんよう草柳です

○１月・２月の予定○

1月17日　「上杉鷹山に学ぶ経営学」
　童門　冬二（作家）
1月24日　「米中関係は嵐に向かう」
　加瀬　英明（外交評論家）
1月31日　「動物の子育て」
　増井　光子（上野動物園長）
2月７日　「ゼロ成長下の経済生活」
　高橋　乗宣（三菱総研主席研究員）

毎週日曜日

青森放送	午後	12：00～12：30
岩手放送	午前	10：00～10：30
秋田テレビ	午前	10：00～10：30
仙台放送	午前	10：00～10：30
山形放送	午前	10：00～10：30
福島テレビ	午前	10：00～10：30
新潟放送	午前	10：00～10：30

白い国紀行

○テーマ○

1/11～15　注目!!リサイクル
1/18～22　コレクション拝見!
1/25～29　流派の心と技
2/1～5　東北鬼伝説
2/8～12　奥様お知恵拝借

毎週月曜日～金曜日

青森テレビ	午前	11：30～11：45
テレビ岩手	午前	10：00～10：15
秋田放送	午前	10：35～10：50
ミヤギテレビ	午前	10：00～10：15
山形テレビ	午前	10：00～10：15
福島中央テレビ	午前	10：00～10：15
テレビ新潟	午前	10：00～10：15

ファミリーサイエンス

毎週金曜日

青森朝日放送	午後	5：15～5：30
秋田朝日放送	午後	5：15～5：30
東日本放送	午後	6：45～7：00
福島放送	午後	5：15～5：30
新潟テレビ21	午後	5：15～5：30

草柳文恵のお元気ですか

毎週月曜日→金曜日・５分番組

青森放送	午前	10：10～10：15
岩手放送	午前	9：45～9：50
秋田放送	午前	9：25～9：30
東北放送	午前	9：50～9：55
山形放送	午前	11：45～11：50
ラジオ福島	午前	10：45～10：50
新潟放送	午前	10：40～10：45

あなたとアフタヌーン

沢田聖子の WITH YOUR LIFE

毎週土曜日

エフエム青森	午後	12：00～12：30
エフエム岩手	午後	12：00～12：30
エフエム秋田	午後	12：00～12：30
エフエム仙台	午後	1：00～12：30
エフエム山形	午後	2：00～12：30
エフエムラジオ新潟	午後	12：30～1：00

黒崎昭二のシャンソンをあなたに

毎週土曜日

エフエム秋田　午後　7：00～7：55

LET'S CHALLENGE
TELEVISION
AM RADIO
FM RADIO

新コーナー予告

社誌では今後，毎月のタイムリーな情報提供とめり張りを付けた誌面の編集を心掛けていくことにしています。来月号からは，次に紹介するコーナーなども随時設けていくことにしています。

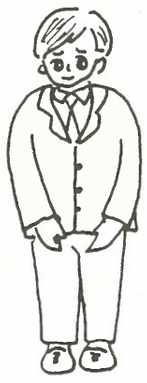
GROUPウォッチング

東北電力企業グループは，ご存じの通り当社を除いて31社，各社で働く社員を合わせるとおよそ1万2,000名で，当社と同程度となっています。

クループ各社の社員は同じ電気事業に携わる仲間であり，その仲間たちは，私たちがこれから取り組んでいかなければならない数々の課題や目標について，共に悩んだり，実践してくれる良き友人でもあります。

この「GROUPウォッチンク」のコーナーでは，クループ各社が直面している課題達成に向けての取り組みなどを紹介していきます。

私たち一人ひとりが何がしかの壁にぶつかりそうになった時，それぞれの得意分野を生かしたグループ各社の取り組み状況やアドバイスが，きっと役に立つことと思います。



取材先のみなさんにはお忙しい中，ご迷惑をお掛けしますが，ご協力のほど，よろしくお願いします。

職場探検日記

これまで，アタック&アタックのコーナーとして職場で働く仲間たちを紹介してきましたが，今後は，業務中心の紹介をしていきます。たとえば，「当直業務」を取り上げ，当直の時の営業所や発電所，給電指令所などの模様をルポ形式でお伝えしたり，「お客さまに電気が送られるまで」というテーマで，新築されるお客さまのお宅に電気が送られるまでを，電柱を建てる際の敷地交渉の段階からお伝えするなど，テーマに関連する職場を文字通り「探検」していくようなコーナーにしていきたいと思っています。

このほかに，東北電力や社員の実態・特徴を示す数字を取り上げて紹介していく「数字で見える東北電力」や，役員と社員の対談「無礼講トーキング」「ひと口知識」などのコーナーも随時設けていきます。

㈱ユアテック
北日本電線㈱
会津碍子㈱
東日本興業㈱
東北コンピュータ・サービス㈱
東北ポール㈱
常磐共同火力㈱
東星興業㈱
通研電気工業㈱
東北電機製造㈱
東北発電工業㈱
荒川水力電気㈱
東北計器工業㈱
東北緑化環境保全㈱
酒田共同火力発電㈱
日本海エル・エヌ・ジー㈱
東北ポートサービス㈱
東北用地㈱
相馬共同火力発電㈱
インドネシア・エル・エヌ・ジー㈱
㈱東北開発コンサルタント
㈱電力ライフ・クリエイト
東北情報ネットワークサービス㈱
東北セルラー電話㈱
㈱エルタス東北
東北エアサービス㈱
東北シティ開発㈱
㈱電気器具東北センター
東北オー・エー・サービス㈱
東北インテリジェント通信㈱
㈶東北電気保安協会
東北電力㈱

長い間ありがとうございました

平成４年12月
定年退職者の方のご紹介
（敬称略）

1. 入社年月日と入社時の会社名
[redacted]
3. 在職中の思い出
4. 後輩に一言



情報通信部　電子通信課付
通研電気工業株式会社出向
和野　辰夫
❶昭和28年10月１日　東北電力
[redacted]

❸　初期のマイクロ波回線建設と保守，および当社初めての女川原子力発電所１号機の建設に従事したこと。
❹　変化の激しい時代です。価値観も多様化しております。的確な状況判断と先見性ある柔軟な対応を心掛けてください。

五所川原営業所
配電課技術係
葛西　幸雄
❶昭和28年11月１日　東北電力
[redacted]

❸　昭和29年９月の洞爺丸台風で，１週間不眠不休の復旧作業を行い点灯した時に，地域の人々に大変喜ばれたこと。
❹　何にも健康が第一です。心を豊かに人との出会いを大切にして，頑張ってください。





青森支店付
東日本興業株式会社出向
藤田　裕
❶昭和26年４月１日　東北配電
[redacted]

❸数次の料金改訂，需要拡大，石油危機，そして原子力ＰＡで東奔西走した後半，今は皆よき思い出です。
❹　河海は細流を択ばず…地域とのつながりを大切に。健康に留意して，より魅力ある東北電力を構築してください。



岩手支店付
株式会社ユアテック出向
大川　雄也
❶昭和26年３月15日　東北配電
[redacted]

❸　昭和55年12月の雪害は異常着雪となり，送配電線設備に多大の被害を与え，大自然の恐ろしさを痛感しました。
❹　健康は自分自身と家族への最高の贈り物です。健康に感謝し，夢とロマンを求め頑張ってください。



古川営業所
総務課経理係
後藤　利昭
❶昭和32年８月１日　東北電力
[redacted]

❸　30年目にして単身赴任し，良き上司，先輩，同僚の方々に恵まれ，いろいろなことを教えてもらい楽しく勤務できたこと。
❹　心身の健康と安全を第一に明るい職場と楽しい家庭を築き，当社繁栄のため頑張ってください。

宮城支店立地用地部付
東北用地株式会社出向
鈴木　徳郎
❶昭和26年３月10日　東北配電
[redacted]

❸　良き上司，先輩，同僚に恵まれ，苦楽を共にしたすべてが懐かしい思い出です。
❹　心身共に健康で，安全に留意され，地域社会より一層親しまれる東北電力として頑張ってください。





これからもガンバッテください



新庄営業所
配電課技術係
加藤　静雄
❶昭和28年７月１日　東北電力
[redacted]

❸　それぞれの職場で良き上司，先輩，同僚に恵まれたことと，台風や雪害等の災害復旧に不眠不休で臨んだことなどが思い出です。
❹　健康は財産です。健康と安全を第一に，明るい職場と家庭づくりに頑張ってください。

会津若松支社
只見川ダム管理所
井上　富男
❶昭和47年12月28日　東北電力
[redacted]

❸　各職場で良き上司，先輩，同僚に恵まれ，過ぎた日々のすべてが懐かしい思い出です。
❹　健康と安全に留意され，人の和を大切に，常にチャレンジ精神を忘れず，充実した毎日を送ってください。





高田営業所総務課付
株式会社東北電広社出向
浦部　岑生
❶昭和27年３月26日　東北電力
[redacted]

❸　東北電力という素晴らしい会社に40年間も勤務させていただき，家族共々良き生活ができたこと。
❹　健康と安全をベースに自分の考えをしっかり持ち，常に先を見極め，前向きな姿勢で業務に精励してください。

新潟支店総務部付
日本海エル・エヌ・ジー株式会社出向
山際　健一
❶昭和22年７月14日　東北配電
[redacted]

❸　それぞれの職場で良き上司，先輩，同僚に支えられ，その時々の苦しみ楽しみが懐かしく思い出されます。
❹　まずは健康第一。人との出会いを大切にし初心を忘れず，充実した悔いのない日々を過ごしてください。





高田技術センター土木課
関原　優行
❶昭和41年３月10日　東北電力
[redacted]

❸　各職場で良き上司，先輩，後輩に支えられ，楽しく仕事ができたことが一番の思い出です。
❹　健康と安全に十分留意され，多様化する社会に対応するため，明るい職場と家庭を築いてください。

仙台火力発電所
発電課
鈴木　正二
❶昭和32年２月１日　東北電力
[redacted]

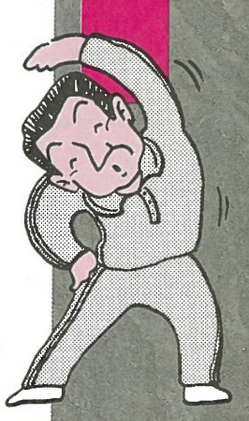
❸　平成４年９月に地域奉仕活動による社長表彰を頂き一生の思い出になったことと，35年有余無事勤務できたこと。
❹　健康と安全を第一に，地域発展に貢献し東北電力の発展に努めてください。皆様には大変お世話になりました。





原町火力発電所建設所
太田　文男
❶昭和26年４月１日　東北配電
[redacted]

❸　昭和50年２月の豪雪災害の復旧工事や原町火力の工場移転交渉での素晴らしいチームプレーは生涯忘れられません。
❸　何事にも初心を忘れず，誠意と勇気を持ってそれぞれの責務を全うし，地域からより一層の信頼をかちとってください。



FREE TALKING

気ままにおしゃべり 1月

このコーナーは，みなさんから自由なテーマで寄稿してもらうページです。仕事のこと，オフタイムのこと，何でも構いません。あなたの本音でこのコーナーをつくってみませんか。

憧れのハワイ

ついにと言うか，やっとと言うか憧れのハワイに行って来ました。毎日が最高の日でした。23階から見るハワイの夜景を肴に飲む免税のブランデーは，美味の一言につきます。そして蒼い海，青い空のワイキキの浜辺でおヘソのよく似合うハイレグギャルをながめながらのブレックファースト，グルメを超越した天国の朝飯と言っていい味でした。また行かねばなりません。そのために私は一生懸命に仕事をします。（迫仲・講談社から発刊になりました「サラリーマン川柳」にエレキ猫のペンネームで私の川柳が載っています。いい本です。必見の価値あり!!）



（エレキ猫）



むなしいぜ。

「ただいまー」。今日も仕事を終え，さっそうと社宅に帰ってきた。しかし明かりもなければ家の中も寒い。「さみしいな〜」。「ようし，夕食を作ろう」と冷蔵庫を開けるが何も無い。「それじゃ風呂に入ろう」と気を取り直してじゃ口をひねるが湯が出ない…。あっ，きのう温水器のスイッチを切ってデートへ出掛けてしまったのだ…ガクン。

きのうまでの夢のような日が，一気に悪夢に変わる瞬間の月曜日。久しぶりのわが社宅にはカッコウ鳥が鳴く。こんな日は，何もしないで冷たいふとんの中へ飛び込み，きのうの夢をみるに限る。現在19時30分，「もう寝よーうっと」。　（最上のトム）

編集後記

▶長い間交際を続けてきた「社誌」と「東北電力新聞」が，めでたく結婚し，新しい社誌が生まれました。

この生まれたばかりの社誌，みなさんの目にはどう映りましたか？

できの悪い子供ほど，親にとってはかわいいものといいますが，みなさんから「読まれ，親しまれる社誌」を目指して，常に生まれ変わっていきたいと思っています。

無い頭をひねり回しているできの悪い私にぜひみなさんの愛のムチ（声）を一つ。

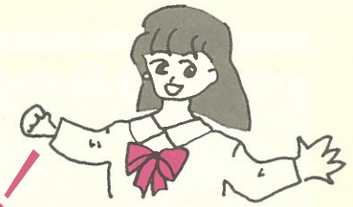
（ささき）

▶このごろ興味を持っている「群（むら）ようこ」という作家が，「一番面白いことは，平凡な日常の中に潜んでいる」と言っていたけれど，彼女の作品を読んでいると，なるほどと思うことがいっぱい。そうだ，そうだとお腹を抱えて笑っちゃったほど。

今回から社誌の担当になりました。新しいものを生み出していくことは難しいことだけど，みなさんの心に残っていくような社誌にしていきたいと思っています。そして，末長〜く愛してもらえるとうれしいなぁと願っています。　（むらい）



あなたが社誌の名付け親！



社誌の愛称を募集しています。（表紙のウラを参照）
愛称を採用させていただいた場合には，謝礼を差し上げます。

愛称（ニックネーム）

意味



●所属

●氏名　　●男・女　　●年齢

※裏のアンケートにも記載願います。

今月号の社誌はいかがでしたか？

～みなさんの声をお寄せください～

お寄せいただいたご意見ご要望などを掲載させていただいた場合には，謝礼を差し上げます。

■今月号の中で興味のある記事を選んで，番号を○で囲んでください。（複数可）

1．会長，社長新年のごあいさつ　2．特集　3．特別寄稿　4．ＰＡＬ奮闘記
5．ＣＭ制作の現場から　6．マンスリーＮＥＷＳ　7．掲示板　8．新コーナーの予告
9．定年退職者の方のご紹介　10．気ままにおしゃべり　11．電力需給実績

■今月号の社誌について

企画・内容・レイアウトなど，どんなことでも結構です。
あなたの感じたままをお聞かせください。

■「気ままにおしゃべり FREE TALKING」に原稿をお寄せください。

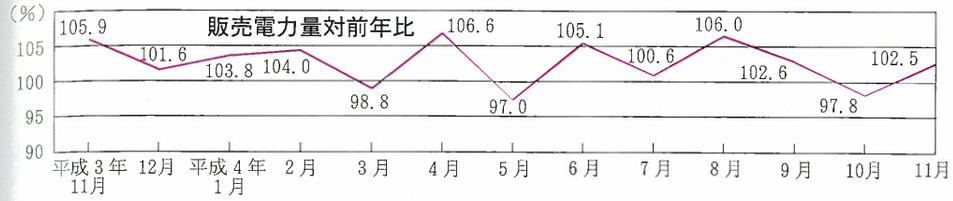
（テーマは設定していませんので，自由にご寄稿ください）

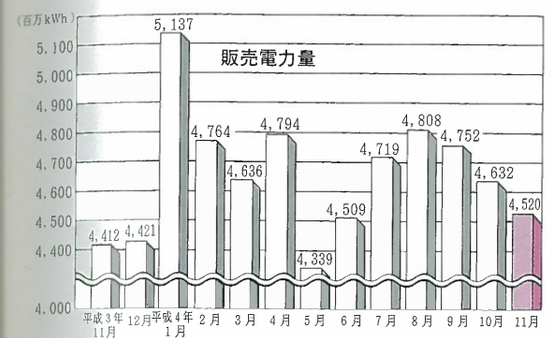
題名（内容に合わせたタイトル）	ペンネーム

■あてさき　　広報部広報課　社誌担当宛

平成4年11月電力需給実績

電力需要は全体として2.5%の伸び



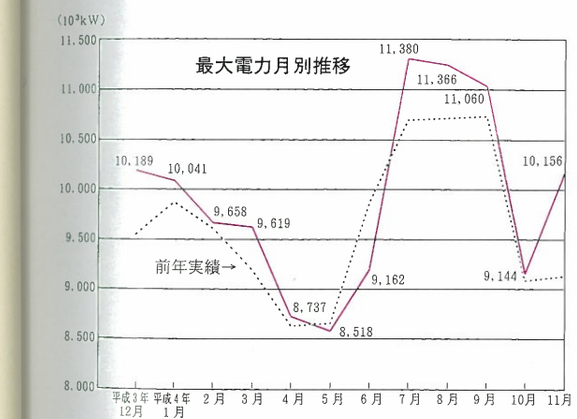


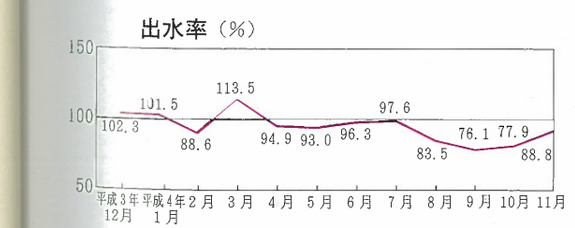
用途別内訳（百万kWh）（　）内は構成比

大口	電灯	小口	業務用	その他	合計
1,648 (36.5)	1,306 (28.9)	770 (17.0)	690 (15.3)	106 (2.3)	4,520

発受電電力量（百万kWh）
（　）内は構成比

	自社発電			他社受電 その他	
	原子力	水力	火力		
4年11月	376 (7.4)	602 (11.8)	2,704 (53.2)	1,403 (27.6)	5,085





●ひとくちメモ

11月の出水率は88.8%と，8か月連続して渇水が続いています。

出水率とは，自流式発電所において発生した当該月の電力量と，これら電力量の過去の平均値（4年度は昭和17年度以降の49か年平均）との比率で，豊水や渇水の度合を示すものです。



（南天の実）

表紙の写真

12月21日，新装オープンした仙台北営業所のコミュニティープラザ「フェンテ」の一コマ。仙台北営業所では，スペイン語で「泉」を意味するこのフェンテを活用し，お客さまとの交流を一層深めることにしている。モデルはお客さまサービス課の近藤吉彦さん（写真左）。



仙台北営業所の全景



明るい雰囲気の窓口



コミュニティープラザ「フェンテ」



ビデオコーナーで楽しまれるお客さま